

東京龍門会報

新会長 国分氏

副会長 日高氏と今村氏と彦野氏が

幹事長は酒匂(昭男)氏に決まる



左から彦野副会長・日高副会長・今村副会長・園田常任幹事・酒匂幹事長・村岡常任幹事の各氏

第六回東京龍門会の総会(六月三

日三州クラブで開催)で、役員改選の議事にともない、若松文保会長と安田清広副会長それに酒匂鴻一幹事長の三氏から辞意の表明があった。そしてそれぞれの後任に国分和夫氏、日高正夫氏、今村杉氏・酒匂昭男氏

(新役員の紹介)

会長 国分和夫

旧中・大正十四年卒(中二十四期) 東市来町出身 懶国分電機製作所・取締役社長

副会長 日高正夫

旧中・昭和十三年卒(中三十七期) 蒲生町出身 共同石油(懶潤滑油部担当課長)

副会長 今村 杉

高校・昭和二十五年卒(高二期) 加治木町出身 今村電機(懶取締役社長)

副会長 彦野澄子(留任)

旧女・昭和十七年卒(高女二十期) 鹿児島市出身 美容院経営

幹事長 酒匂昭男

高校・昭和二十六年卒(高三期) 横川町出身 台東区立竜泉中学校教諭



国分会長

の四氏を推薦したい旨の動議がだされ、これを議事として計られたところ万場一致で採択され、今年度から会の運営に当られる新役員が選出された(役員紹介参照)。

辞任された三氏は、今日あるこの東京龍門会の発展に多大の貢献をされたいわば育ての親として、会員相互に信頼の厚かった方々だっただけに、この日の辞任はおしまれてならなかったのであるが、灯された燈火は消えることなく後継者に引き継がれ、これを受け継ぐ新役員の方々も前任者に勝るとも劣らぬ顔ぶれであれば、今まで育てられた芽を更に大きく成長させていくにふさわしい新役員の誕生といえよう。

なお卒業年度毎の常任幹事に中30回卒の園田豊氏と中43回卒の村岡高昭氏、高2回卒の岸園司氏が選任された。

会長就任のあいさつ

国分和夫

今回はからずも会長を仰せ仕りました国分でございます。私はもともと会長とか理事長とかそういう晴がましい役職は苦手な方で、出来ることならお断りしたかったので御座います。何もしなくてもいいから、すべては幹事の皆さんがやってくれるから、お前はそのままの役をしてくれればいい、というようなことで引きましたので、それではということで引き受けたようなわけでございます。それともう一つ、お引き受けしようという気持になりましたのは、実は三、四年前から仕事の関係で、月に一、二回は鹿児島の方へ行っており、その折々にあの加治木の蔵王

発行所 東京龍門会

発行人 国分和夫



若松、国分の新旧会長に寄せる感謝と期待

東京龍門会顧問・著述家 濱田尚友（中・昭二卒）

現在東京龍門会の登載会員数は、一、八五三名であるという。この会が発足したのが昭和四十八年六月で、その翌年最初の会員名簿が出来た時点では五一四名であった。東京龍門会発足以来の会長を満五ヶ年つとめた若松文保君は中学の同期である。また全国の龍門会員を統轄する同窓会長佐藤八郎君や、中部龍門会長の法元盛義君もこれまた同期生である。お互いが加中を巣立ったのは昭和二年三月であるから、まさに半世紀を過ぎたわけである。同期生の鼎盛目と云われるかも知れないが、昨年の四月の母校創立八十周年の大事業を推進大成功せしめる一翼となった三君の超人的努力に改めて敬意を表し、今また心からの

賛辞を呈せざるを得ない。それに付けても、日本人口の一割余をかかえる関東地区で、コッコツとした忍耐と努力で五ヶ年間、遂に二、〇〇〇名に迫る龍門会員の完璧な名簿作製を成し遂げた若松文保君の不撓の努力と、若松会長をよく扶けた安田清広君、酒匂鴻一君以下の各スタッフの人知れぬ御苦勞に只感佩あるのみである。

名も知らず交際もない一、〇〇〇余万人の雑多な人口の中で、同窓同門の誇りと親近感を強く共感せしめる龍門会員二、〇〇〇名この名簿一冊が、現在及び将来にわたるお互いの人生行路の道しるべとして珠玉の役を為し得ることがいつの日にかあるかも知れない。東京龍門会が、六〇〇余名の優秀技術社員を統轄する会社の代表たる若松君を初代会長

に得たことは幸福であった。個人的熱意だけでは不可能な同君の持つ組織や、経済上の奉仕を決して忘却してはなるまいと筆者は思っている。

新会長の国分和夫君は中学で二年上級生である。早大高師部卒業以来五十年近い年月を、国分電機製作所経営に一貫している。誠に謙譲で常に微笑をたたえた温厚な君子人であるが、鋼鉄の意志と堅実この上もなき経営の才は知る人ぞ知るである。前任者の敷いた軌道を強固にしつつ、更にこれを堅実に拡大強化するであろう。再選されたスタッフと、新任の補佐役員の諸君が、なごやかにその成果を確信し得る無二のはまり役を得たことを筆者は手放しでよろこびたい。（昭和五十三年八月九日記）



岳をおおぎ龍門岳を眺めていますと、過ぎさった昔の懐しい思い出がいろいろと甦ってきまして、多情多感な中学時代（旧制）のことが走馬灯の如く追想されるわけでありませう。そういうことから自分の青春を育んでくれた郷土、また私の人間形成の基盤を作ってくれた母校といったものにひとしお愛着を感じるようになりました。思えば中学時代はまことになまけ者で勉強ぎらいな落第坊主でした。卒業後すぐ上京しそれから半世紀以上も東京に住みついておりますが、そのころは今のような卒業生の組織もなく、たまに同窓生の二、三人で旧交を暖め合う程度でした。その間戦争などいろいろありまして鹿児島へ行く機会もないまま、ましてや母校へ行くなどは夢のようなことでした。

中学時代すっかり諸先生方に迷惑のかけっぱなしで、卒業してからも何一つ卒業生らしいことも出来ず恥しい思いをしておりました。そのよくなことで、最近たびたび鹿児島へ行くようになりまして、非常に郷里が懐しく、また母校のためにも何か卒業生らしいことをしなければいけないなと思うようになりました。そこへたまたま若松会長から東京龍門会の会長を引受けてくれないかという話があり、これは母校のために最後のご奉公できるチャンスを私に与えてくださったのだと思ひ、お引受けしたようなわけでございます。

若松前会長はまれにみる豊かな包容力の持ち主で、またバイタリテイにとんだ行動力のある方でございます。この会を今日まで育てあげてこ

られた御努力には頭の下がる思いが致しますし我々は非常に感謝しているものでございます。このような立派な方の後に非力な私が就任し、甚だ見劣りが致しますが、何とかこの大役を果せるよう頑張るつもりでございます。幸いに前の名幹事長の酒匂（鴻一）さんに引続き、今後は新進気鋭の酒匂（昭男）さんが幹事長になられ、私の女房役として力を貸していただくことになりましたので、前会長が示された成長路線を踏みはずすことなく全力投球して、灯された燈火を更に一段と輝くよう私は私りの努力をいたして行くつもりでございますから、会員の皆様方の協力と暖かいご支援を心からお願ひ申しあげる次第でございます。



第六回東京龍門会総会から

今年で第六回目を迎える東京龍門会の総会が、去る六月三日土曜日、品川区上大崎にある三州クラブで開催され、総会には旧中学・女学校・高校の同窓生約一八〇名が参加した。母校から白浜伝校長(中昭十四卒)、また恩師の柴田先生(天15、昭8在職英語にもおい出いだいた。例年参列いただいてる佐藤八郎(中昭三卒)会長は、今年も所用と重りやむなく欠席された。会は安田清広(中昭四卒)副会長の開会のことばで始まり、若松文保会長のあいさつ(右欄参照)に続いて母校の近況を中心に白浜校長、そして恩師の柴田先生から若きよき時代の思い出をまじえながらそれぞれあいさつがあった。

白浜校長の近況によると、加治木高校も旧中学・女学校・高校を合わせ今までの卒業生総数一九、〇〇八名となり、在校生数も一、三五〇名という、数のうえでも歴史と伝統のうえでも、県下で最も規模の大きい

学校になり、校舎も全て鉄筋コンクリート建てに改築され、昔日の面影はといえば大きな楠の木、加治木石の石垣ぐらいで、よほど細かく見ないと外観だけでは見当がつかなくなつた。また昨年母校の創立八十周年記念の際、同窓生から集められた寄附金が丁度五百万円残つた。そのお金の使途について、佐藤同窓会長その他関係各位と相談したところ、鹿児島県立加治木高等学校教育振興会という名の法人を設立し、残金をその基金に当て、後進の教育に役立たせることになつたのでご了承いただきたい。そして現在その関係筋に申請中であるとの報告があつた。

一通りのあいさつも終り、議事の審議に入った。52年度の経過報告と会計並びに監査報告が行なわれたがいずれも報告書通り承認された。ただここで会計担当者より、会費の納入率が42%と非常に低く、余裕もつた運営をしたので会費の納入に

ついては、もっと会員各位の積極的なご協力をお願いしたい旨の要請があつた。次に53年度予算案が上呈され、原案通り承認された。ひきつづき、東京龍門会規約の改正案と役員改選の議案が出された。役員改選については一面で詳細にお伝えした通りである。規約の改正については、第二条と第五条が次のように改正され、全員の承認を得た。

第二条 本会は事務所を東京都渋谷区神宮前二の八の二 パシコンビル内に置く。とされていたのを「本会は事務所を東京都内に置く」とする。

第五条 通常会費は年会費として金壹千円を納めるものとするを、「通常会費は年会費として金貳千円を納めるものとする」となつた。

これで総会の議事もとどこおりなく修了し、彦野すみ子副会長(女昭十七卒)から閉会のあいさつがありパーティに移つた。パーティは本格派のショーチューとサツマ料理を囲み、昔日の思い出に花が咲き、午後六時頃散会した。

会長あいさつ(要約)

若松文保(中・昭二卒)

東京龍門会も今回で六回目の総会を迎え、年毎に沢山の方々がご参加くださいます。暖かい親睦の輪が拡大していくことは誠に喜ばしい事と存じます。同窓会なんてとか、メリットがないなどか多くの不満はあります。確かに年代の違う会員間であつて、それがそれぞれ満足を得るようなことというのは大変なことです。しかし僅かながらでもそういうものを解消できればと、幹事一同努力してまいりました。何しろ本業の方が多忙を極めたりしたこともあり、十分会の運営に奉仕出来ぬままで今日に至っているようなわけでございます。一度灯した燈火は

決して消してはならないわけで、細くはあつても灯された燈火を永遠にあかあかと燃え上らせようと、鋭意務めてまいつた次第でございます。今や関東地区に同窓生二千数百名の方々が在住され、各界で輝かしい活動をなさつておられることを私共は非常な誇りとしております。今日まで会の組織づくりと資金づくりをして名簿の充実に務めてきました。名簿を通して会員の動静や、各位の消息を知るに役立ち、若き日を思い出しながら、母校を一つにする絆によつての結束が更に強められることと思ひます。また年に一度でもこうして一同が集まり、先輩後輩相まみえて親睦をはかるということはずばらしいことで、そもそも同窓会と云う

ものは、懐しいという強い情緒によつて接合されており、それに実利上の機能が自然に無理なく結びついてくるところに良さがあつて、本会もそのように育まれていってほしいものです。

さて私は数え歳古稀を迎え、今なおいくつかの役職をもっているため、この五年間会のために充分な奉仕が出来ずに申訳なく存じております。しかし細々であつても灯された燈火を永遠に燃え続けられるよう、私達の後を受け継ぐ若い方々に期待と励しを寄せつつ、一会員として明日への飛躍発展に協力いたしたいと思ひます。





●パーティーの二コマから……………

集団見合いかな？子持若女の集いかな？
ニューオセエーター！

ヨオッさすが薩摩の女、カンロク十分！
校長先生もたじたじの体、スイマセン

久しぶりに会った、かつてのエリート組
ナンチャッテ！ホントデース

整体指導・脊椎矯正・指圧治療

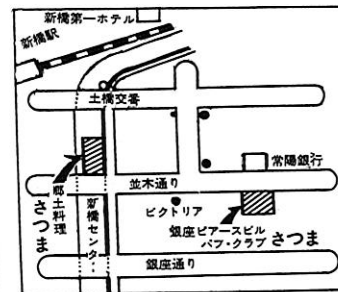
堀江整体研究所

堀江洋佑 (高6回卒)

〒153 東京都世田谷区桜3-19-9
電話 03-428-2466
(腰痛等でお困りの方は御相談下さい)

今夜は酒のうまそうな日……

料理とお酒、そして音楽をお楽しみ下さい。



⊕ 埼玉料理 さつま

銀座店 銀座8丁目新橋セント1号館地下
電話 (572) 0831・0955
池袋店 西武百貨店8階
電話 (983) 8777

⊕ パフ・クラブ さつま

並木通店 銀座8丁目ピアースビル地下
電話 (572) 3201

店主 坂上寿美